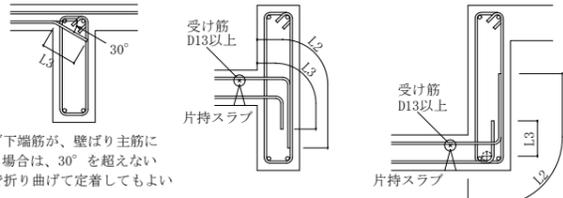


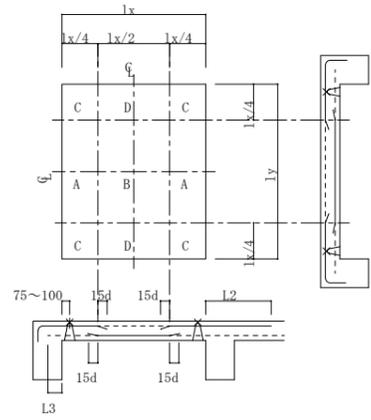
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

6.5 スラブの配筋

(1) 定着および継手

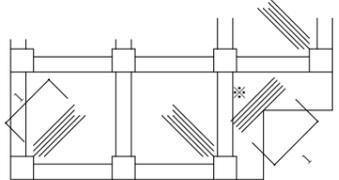


スラブ下端筋が、壁ばり主筋にあたる場合は、30°を超えない範囲で折り曲げて定着してもよい



継手位置	標準継手位置
上端筋	短辺方向 B, Dゾーン
下端筋	長辺方向 B, Aゾーン
下端筋	短辺・長辺方向 A, C, Dゾーン

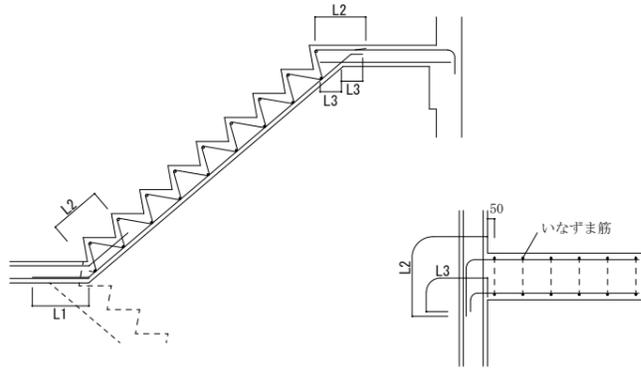
(2) 屋根スラブの補強



- 補強筋は各5-D10又はスラブ主筋の同一径で1=1,500とし、上端筋の下に配筋する。
- ※の箇所(入隅)は各階補強する。

6.6 階段

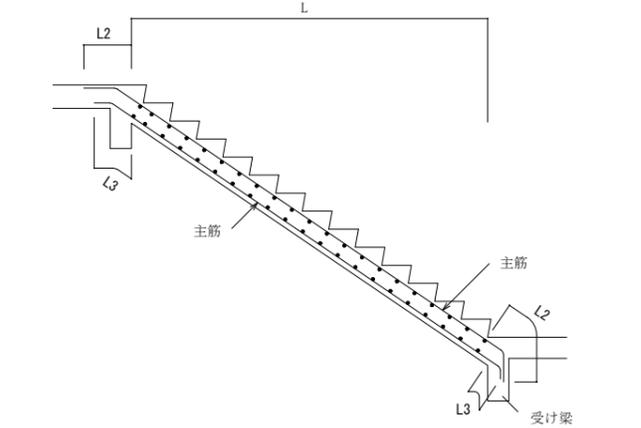
a. 片持階段の配筋は図6.3による。



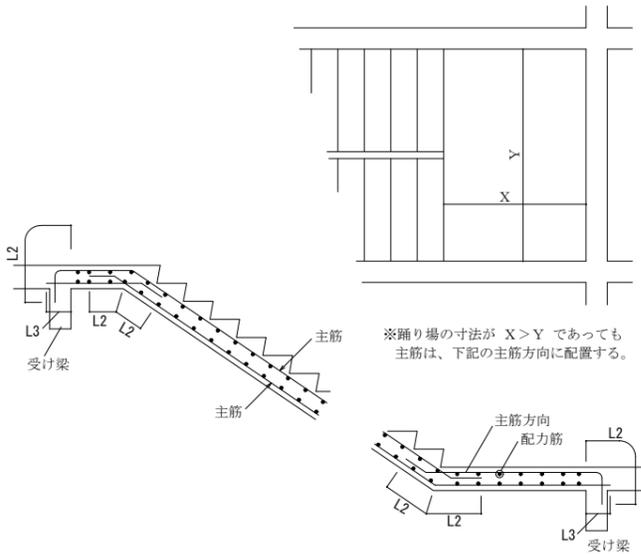
[注] 階段受け壁に入れる補強筋は特記による。

図6.3 片持階段の配筋

b. スラブ階段の配筋は図6.4による。



(a) 階段の両側に小ばりがある場合



(b) 折曲がりスラブで途中に梁のあり場合

※踊り場の寸法が X>Y であっても主筋は、下配の主筋方向に配置する。

8.2 基礎など

8.2.1 布基礎

a. 布基礎の形状および最少寸法

- 布基礎は原則として逆T形断面とし、基礎部分は長方形断面とする。
- 基礎厚さは、ベース筋のみの場合は14cm以上とし、はかま筋を入れる場合またはあばら筋方式とする場合は24cm以上とする。
- 布基礎の立上り部分および基礎つなぎ梁の幅は、上部耐力壁の厚さ以上とするほか、端配筋の場合は12cm以上、複配筋の場合は18cm以上とする。

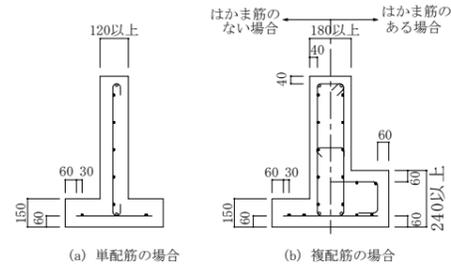


図8.1 布基礎の形状および配筋

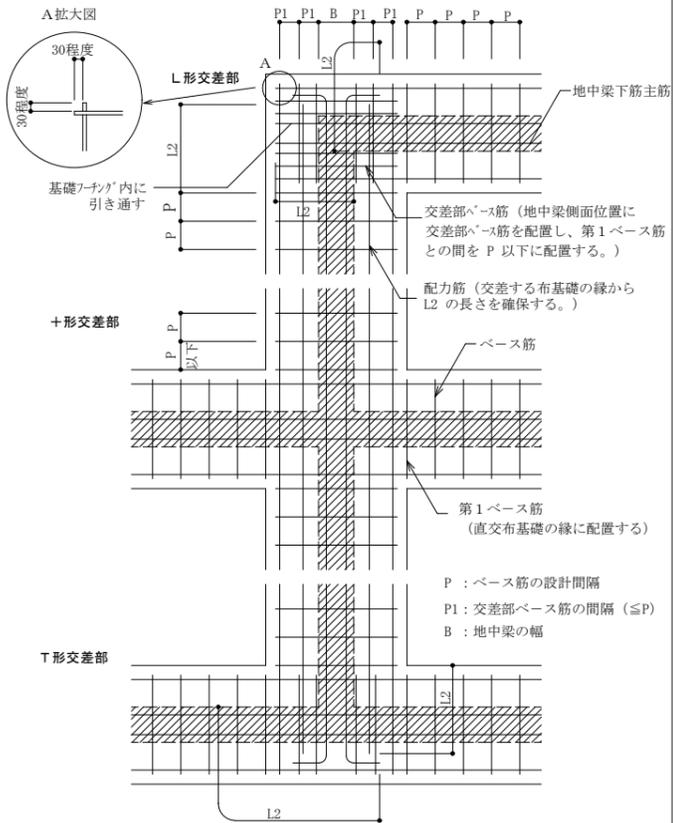
b. 布基礎の基礎部分の配筋

- 基礎部分には、原則として基礎梁下端主筋・ベース筋・配力筋および交差部ベース筋(または補強ベース筋)を配置する。また、特殊な場合には、はかま筋を配置する。
- 直接基礎の配筋は、次によるほか、交差部は図8.2とする。
 - 基礎梁の下端主筋はD13以上、ベース筋・配力筋・交差部ベース筋(または補強ベース筋)はD10以上とする。
 - ベース筋の間隔は原則として20cm以下とし、配力筋の間隔は30cm程度とする。

5. 直接基礎

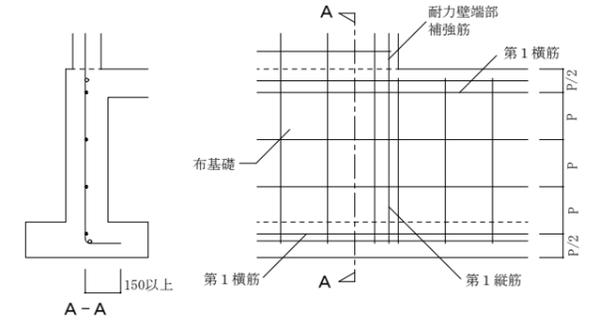
A 布基礎

1 布基礎の基礎部分の配筋(平面)

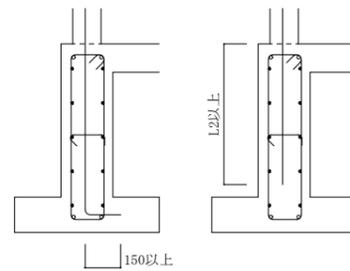


c. 布基礎の立上り部分の配筋

- 布基礎の立上り部分の主筋(基礎ばり上端主筋)は、D13以上とする。縦横筋はD10以上、間隔は30cm以下(複配筋の場合は、45cm以下)とし、第1縦筋は両端の耐力壁鉛直線より、第1横筋は布基礎上下端より設計間隔の1/2に配置し、その他の縦横筋は設計間隔に基づき配置する。
- 布基礎の立上り部分の上部の耐力壁の縦筋および曲げ補強筋は、原則として基礎のベース筋①まで伸ばす。

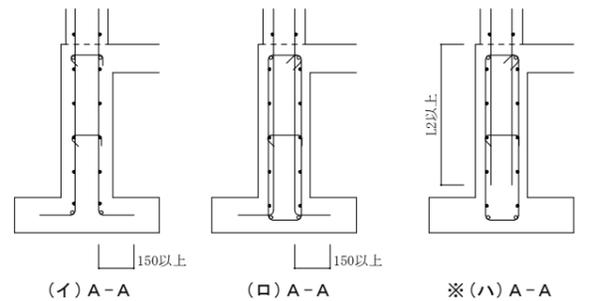


(a) 上部の耐力壁および布基礎の立上り部分が単配筋の場合

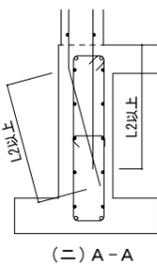


(イ) A-A ※(ロ) A-A

(b) 上部の耐力壁が単配筋で布基礎の立上り部分が複配筋の場合



(イ) A-A (ロ) A-A ※(ハ) A-A



(二) A-A

(c) 上部の耐力壁および布基礎の立上り部分が複配筋の場合

図8.4 基礎の立上り部分の交差部における主筋・横筋などの配筋



株式会社
ヴァイスプランニング
一級建築士事務所

1級建築士登録 第190717号
藤原 龍 美

平成31年度(仮称)千浜認定こども園 新築工事(アール・駐車場整備)

アール 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

SCALE
S=1/20

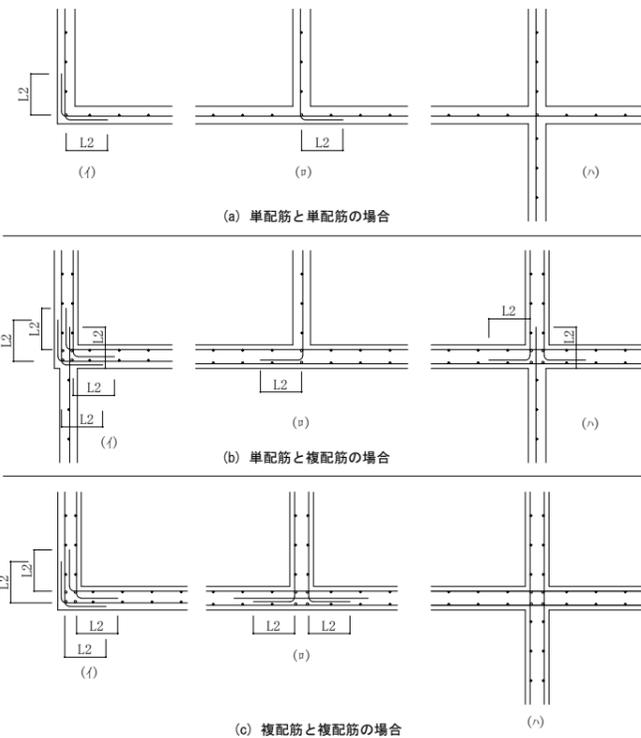
一級建築士 第212753号
構造設計一級建築士 第3836号 神谷 勝久

DATA No

S-12

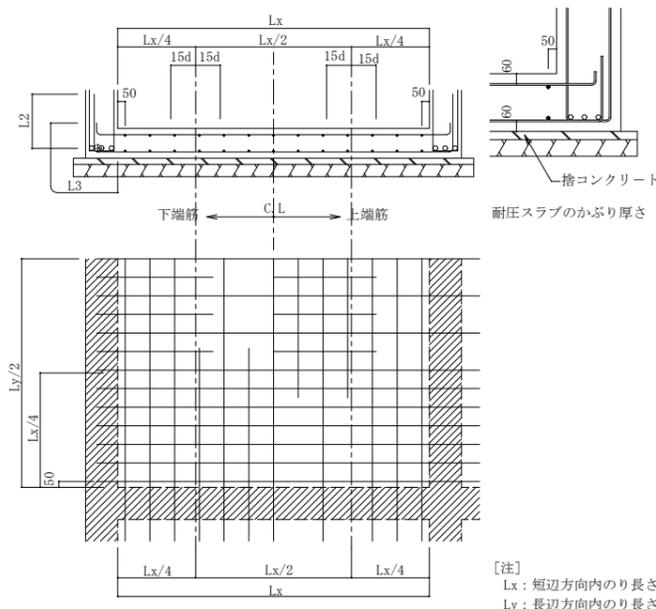
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

(3) 布基礎の立上り部分の交差部における主筋・横筋および耐力壁曲げ補強筋の配筋



8.2.2 べた基礎

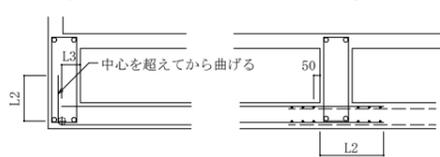
a) 耐圧スラブの配筋



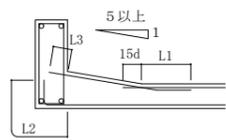
2 地中梁との定着

(1) 最終端

(2) 連続端



(3) べた基礎のハンチ付耐圧スラブの配筋



8.2.3 くい基礎

基礎主筋は D13以上とし、あばら筋・補助筋・腹筋は D10以上とする。あばら筋の間隔は30cm以下とし、くい頭部では原則として20cm以下とする。また、補助筋・腹筋の間隔は30cm程度とする。

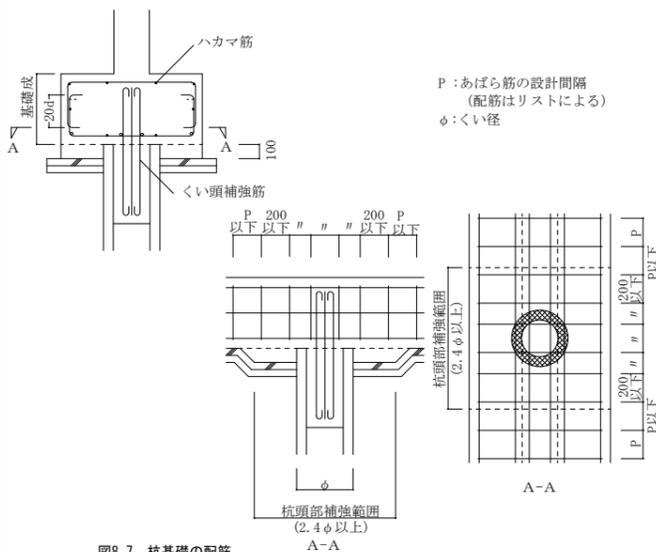


図8.7 杭基礎の配筋

8.2.4 基礎つなぎばり

a. 基礎つなぎばり

- 基礎つなぎばりの主筋は D13以上とし、縦横筋は D10以上とする。
- 縦横筋の間隔は30cm以下(複配筋の場合は、45cm以下)とし、第1縦筋は両端の耐力円直線、第1横筋は基礎つなぎばり上下端より設計間隔の1/2に配置し、その他の縦横筋は設計間隔に基づき配置する。
- 基礎つなぎばりの縦筋は、あばら筋方式とする。

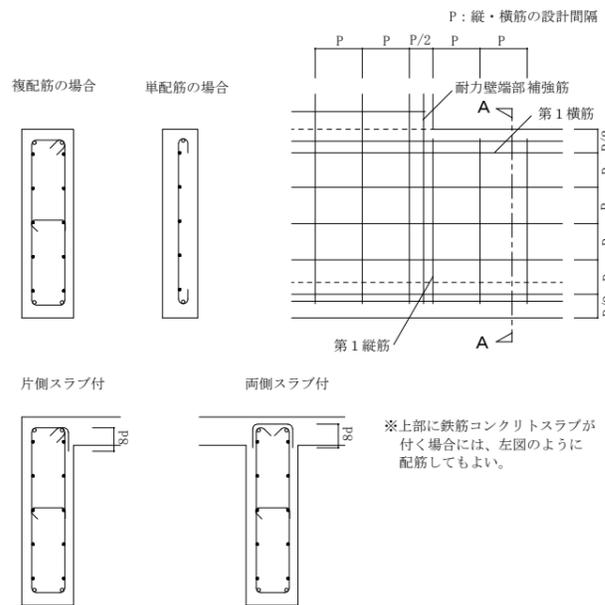
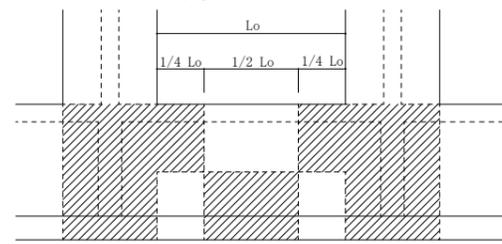


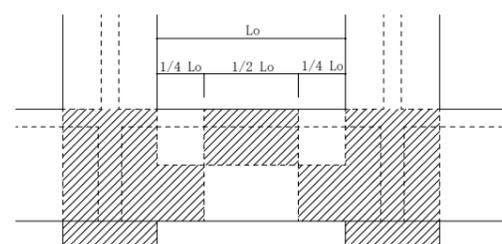
図8.8 基礎つなぎばりの配筋

8.2.5 布基礎、べた基礎および基礎つなぎばりの主筋の継手位置

※開口幅が小さい場合(2m程度以下)は応力が小さいのでこれによらずに良い。 : 継手の好ましい位置



(a) 布基礎およびべた基礎の場合



(b) 基礎つなぎばりの場合

図8.9 布基礎・べた基礎およびつなぎばりの主筋の継手位置

8.3 耐力壁など

8.3.1 耐力壁

a. 耐力壁の長さおよび厚さの最少寸法

耐力壁の長さは45cm以上、厚さは12cm以上とする。ただし、複配筋の場合は厚さを18cm以上とする。

b. 耐力壁の配置

- 耐力壁にはせん断補強筋(縦筋・横筋)、端部には曲げ補強筋、耐力壁の交差部には曲げ補強筋および縦補強筋を配置する。(以下、縦筋・横筋・曲げ補強筋・縦補強筋という)
- 縦・横筋は D10以上とし、耐力壁の見付け面積に対し、縦・横に30cm以下に配置する。複配筋の場合は両側の縦・横筋を45cm以下の間隔で配置してよい。

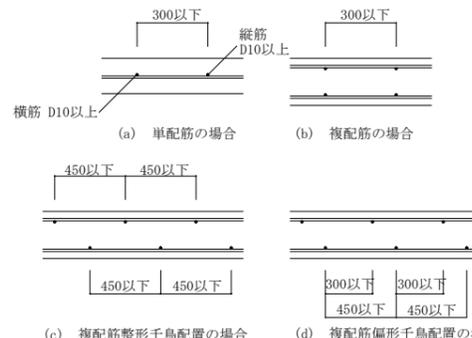


図8.10 縦・横筋の径および間隔

- 曲げ補強筋および縦補強筋は、D13以上とする。
- 耐力壁と床スラブ・屋根スラブの交差部には、壁厚18cm未満の場合は1-D13以上、18cm以上の場合は2-D13以上の横補強筋を配置する。
- 曲げ補強筋および縦補強筋・縦筋の位置は、原則として単配筋の場合は、曲げ補強筋を壁の中心線に、縦補強筋・縦筋は片面を曲げ補強筋の面に合わせて配置する。複配筋の場合は、曲げ補強筋を、かぶり厚さが十分確保できる位置に対象に配置し、縦補強筋・縦筋は単配筋と同様に外側面を合わせて配置する。

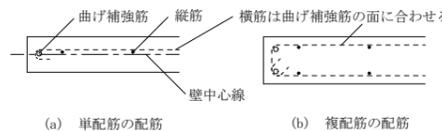


図8.11 曲げ補強筋および縦筋の位置

(6) 鉄筋の定着

- 縦筋および曲げ補強筋・縦補強筋の下端は、布基礎または下階の耐力壁に定着する。上端は、最上階および直上階に耐力壁がない場合は、スラブ内に定着する。ただし片側スラブの場合は180°フックを付け壁筋またはスラブ交差部横筋補強筋(以下、横筋補強)といふ)にかき掛けてよい。

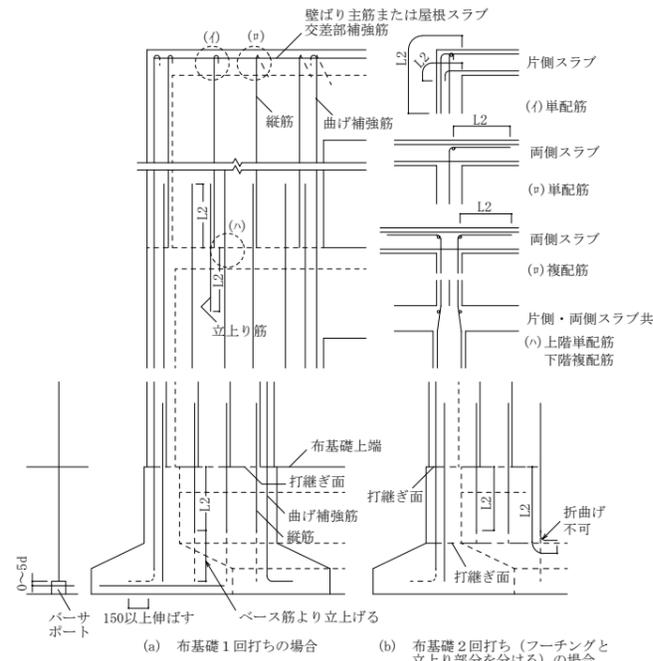


図8.12 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着

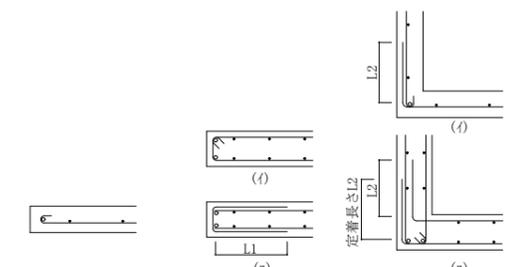


図8.13 横筋の定着

- 横筋は一般耐力壁の場合で単配筋の場合は、端部曲げ補強筋に180°フックを付けかき掛ける。複配筋の場合は、135°のフックでかき掛けし、帯筋方式とするかU字形筋を用いる。耐力壁が交差する場合は、一方の耐力壁内に定着する。

(7) 鉄筋の継手

- 縦筋および曲げ補強筋・縦補強筋の継手位置は、原則として耐力壁の下部とする。
- 曲げ補強筋、および縦・横補強筋の継手は、1か所に集中することなく、相互にずらして設ける。
- 横筋の継手は、原則として曲げ補強筋および縦補強筋の継手に重ならないようにする。
- 縦・横筋の継手は、あき重ね継手でもよい。

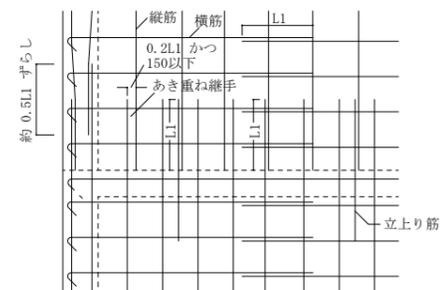


図8.14 横筋・曲げ補強筋・縦補強筋の重ね継手

(8) 各部配筋

i) 一般耐力壁の場合

縦筋は D10 以上とする、第1縦筋は、耐力壁両端鉛直線から、設計間隔の1/2の箇所に、ただし、曲げ補強筋が2本配筋の場合は大外端補強筋の中心から測るものとする。その他の縦筋は設計間隔に基づき左端より配置する。横筋は D10以上とし、第1横筋は耐力壁・下階より設計間隔の1/2の箇所に、その他の横筋は、設計間隔に基づき下端より配置する。横・縦とも終端における間隔は調整区間とし、設計間隔以下とする。



株式会社
ヴァイスプランニング
一級建築士事務所

1級建築士登録 第190717号
藤原 龍美

平成31年度(仮称)千浜認定こども園 新築工事 (プール・駐車場整備)

プール 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

SCALE
S=1/20

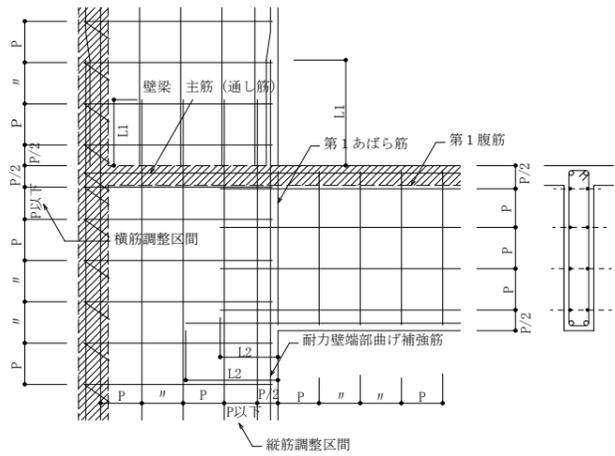
S-13

一級建築士 第212753号
構造設計一級建築士 第3836号 神谷 勝久

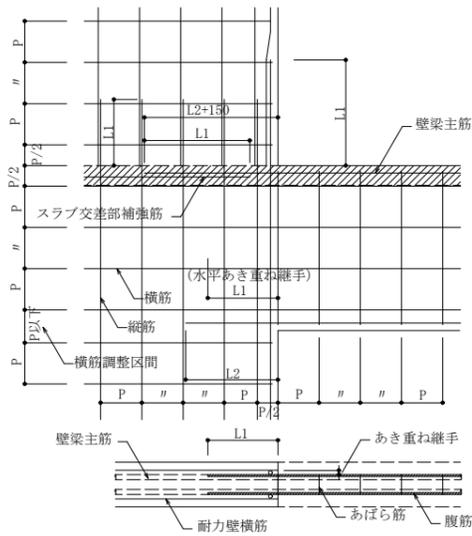
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (5)

3 耐力壁と壁梁の接合部の配筋

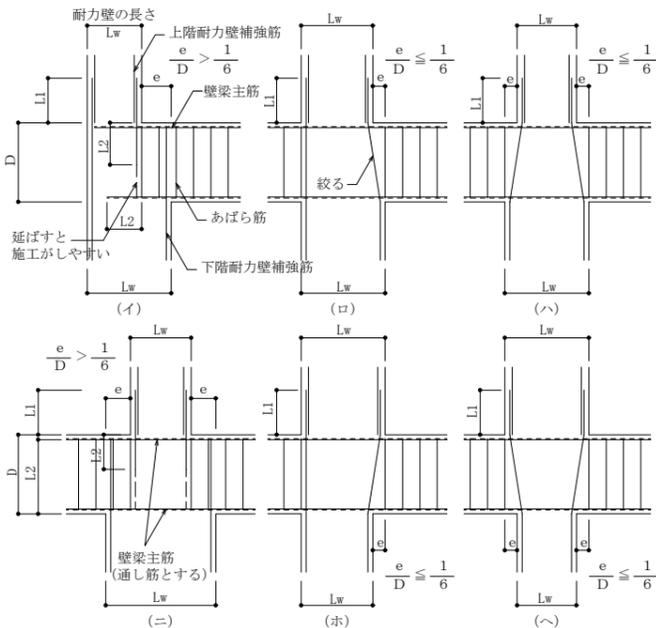
(1) 耐力壁に腹筋を定着した場合



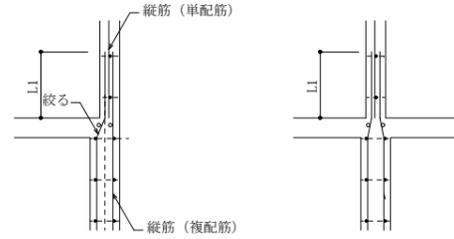
(2) 耐力壁横筋に腹筋をあき継手とした場合



4 上・下階耐力壁の各種配置

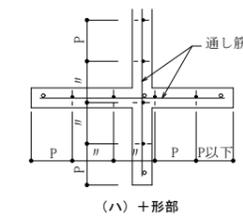
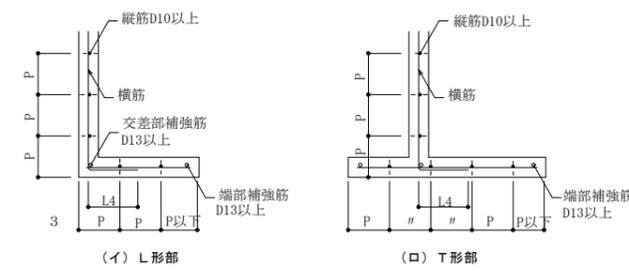


5 上階耐力壁と壁が単配筋で、下階耐力壁が複配筋の場合

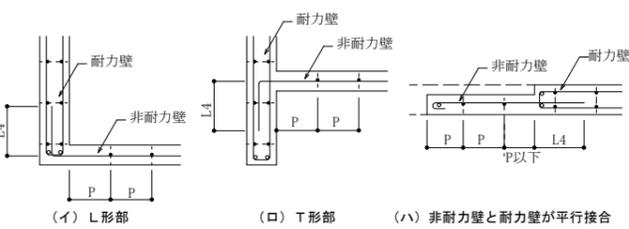


D 非耐力壁と非耐力壁・耐力壁・スラブ・壁梁・小梁・基礎

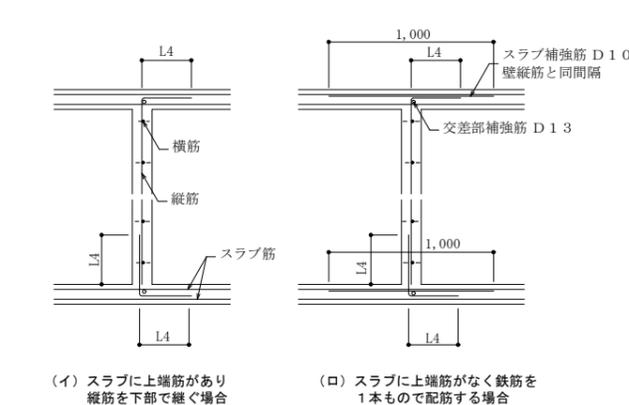
1 非耐力壁が交差する場合



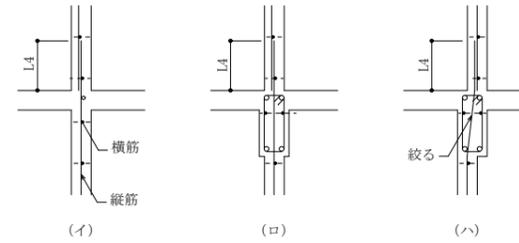
2 非耐力壁と耐力壁が交差または平行して接合する場合



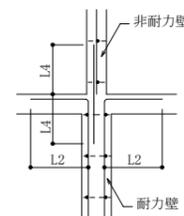
3 非耐力壁がスラブへ定着する場合



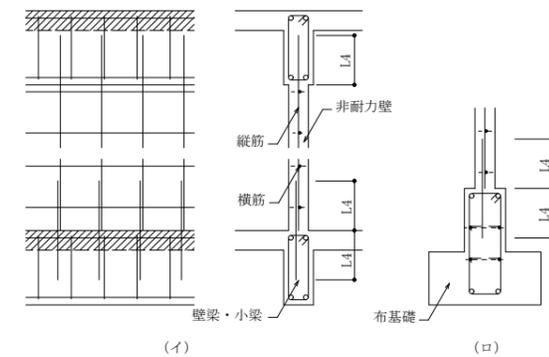
4 非耐力壁が上・下階同じ場所にある場合



5 非耐力壁が下階の耐力壁の上にある場合



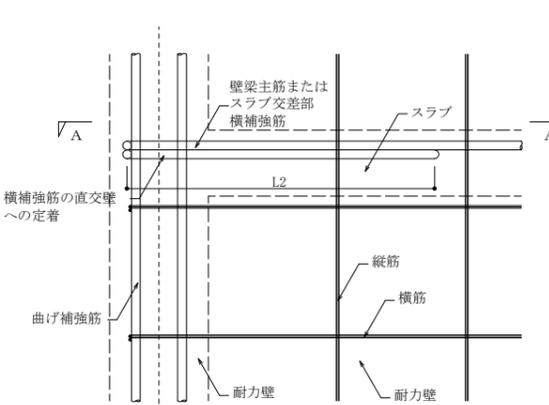
6 非耐力壁が壁梁・布基礎などへ定着する場合



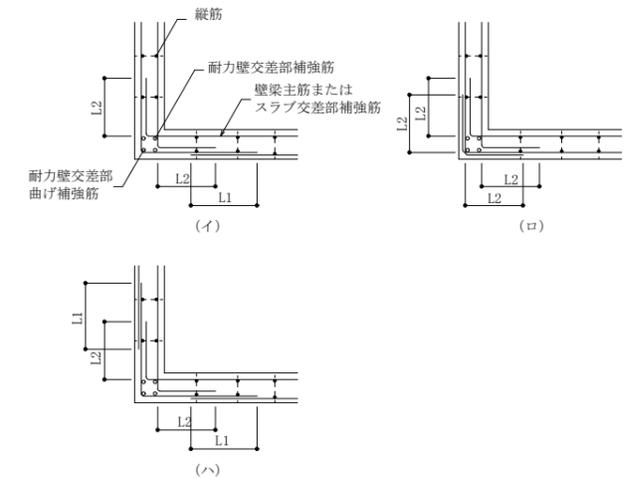
E 壁梁主筋およびスラブ交差部の補強筋が各交差する場合

1 L形部の場合

(1) 耐力壁交差部配筋詳細図 [(2)・(ロ)の場合]

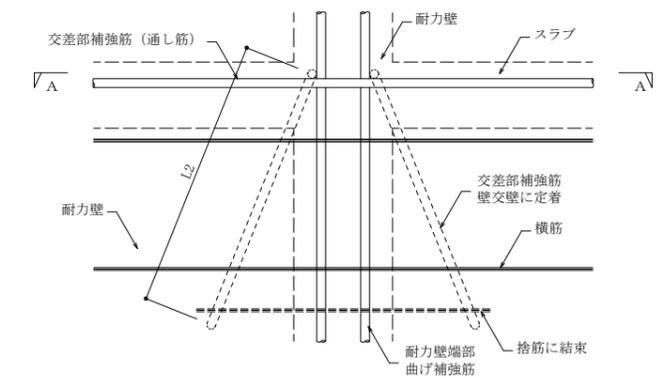


(2) 耐力壁交差部水平断面図 (A-A断面)

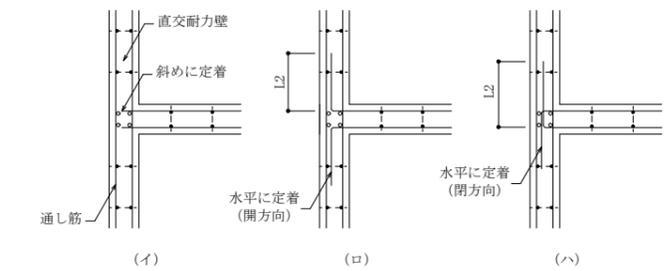


2 T形部の場合

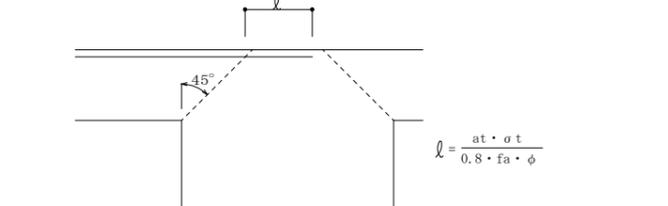
(1) 耐力壁交差部配筋詳細図 [(2)・(イ)の場合]



(2) 耐力壁交差部水平断面 (A-A断面)



最上階 壁梁上端筋の定着



株式会社
ヴァイスプランニング
一級建築士事務所

1級建築士登録 第190717号
藤原 龍 美

平成31年度(仮称)千浜認定こども園 新築工事 (アール・駐車場整備)

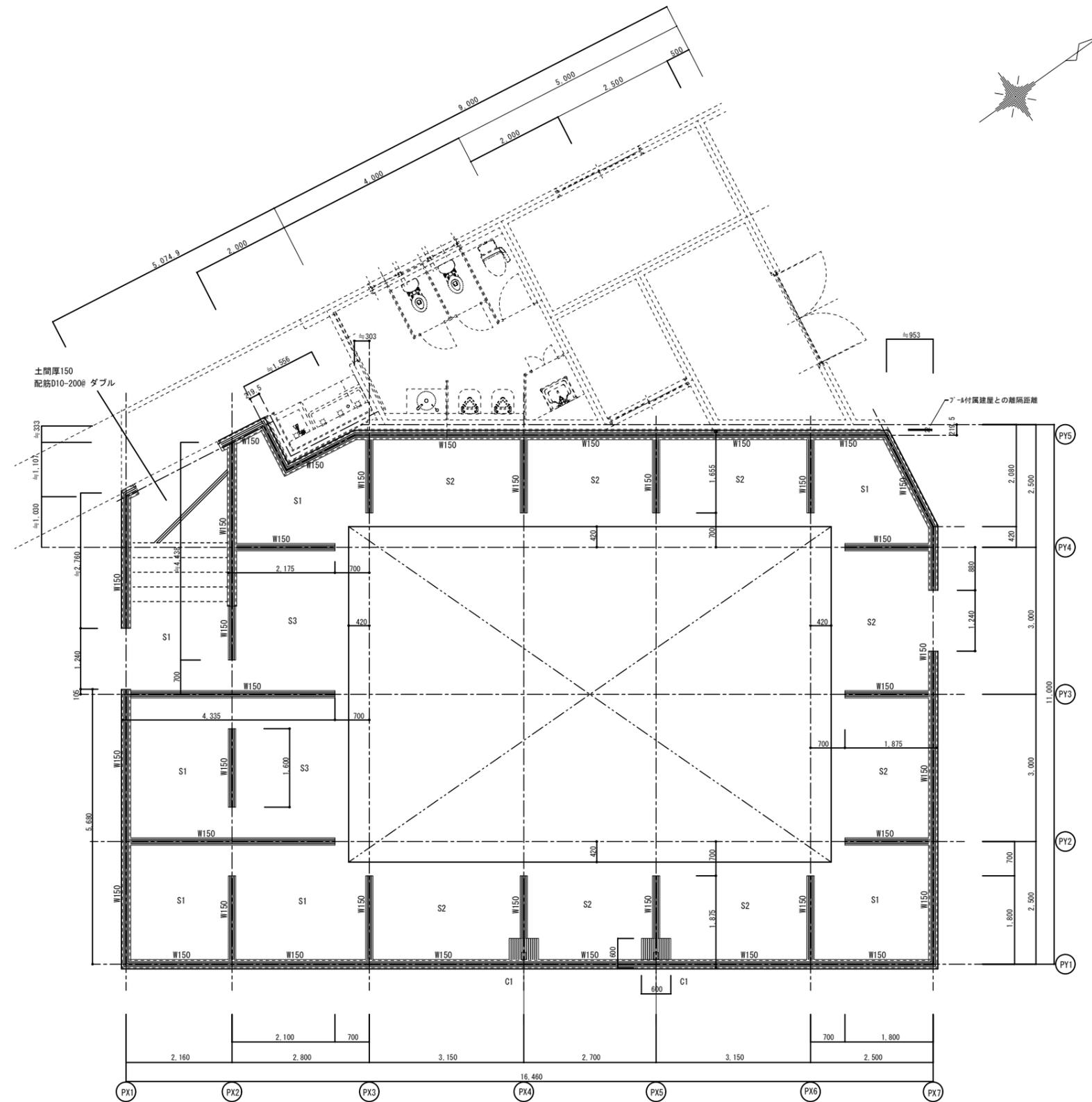
アール 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (5)

SCALE
S=1/

一級建築士 第212753号
構造設計一級建築士 第3836号 神谷 勝久

DATA No

S-15

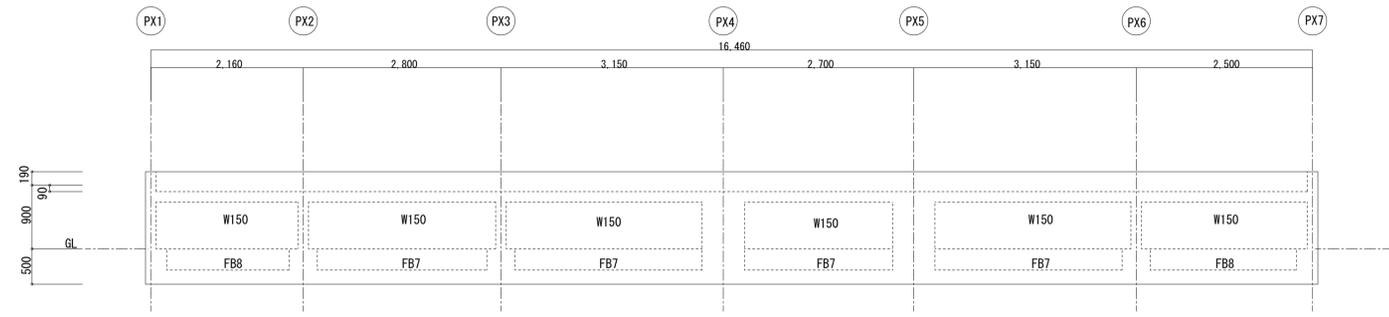


アールサイト 伏図 1/50

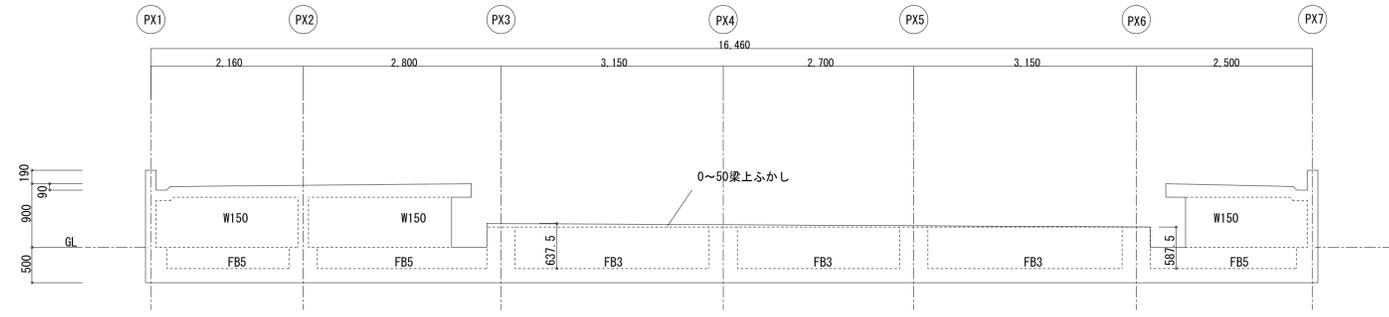
アールGL±0=13.50
※新築舎GL±0=13.10

一級建築士 第212753号
構造設計一級建築士 第3836号 神谷 勝久

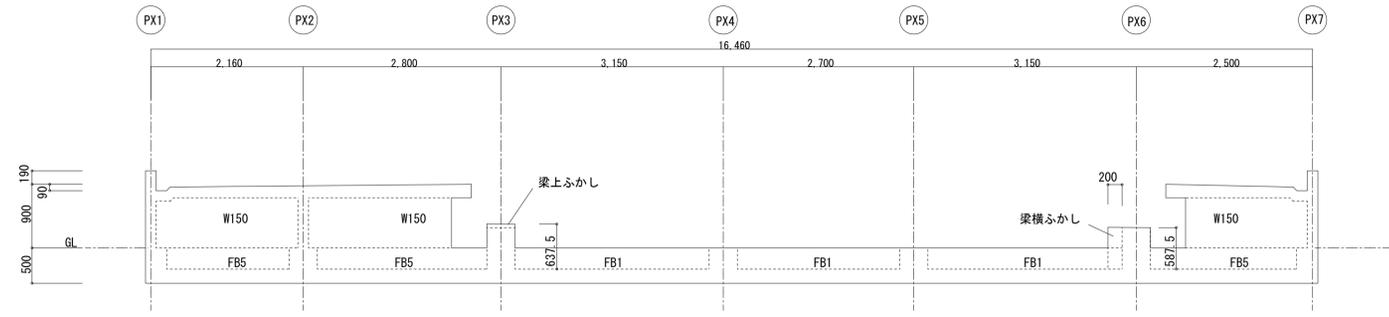
 株式会社 ヴァイスプランニング 一級建築士事務所	1級建築士登録 第190717号 藤原 龍美	平成31年度(仮称)千浜認定こども園 新築工事(アール・駐車場整備)	DATA	No
		アールサイト 伏図	SCALE S=1/50	S-17



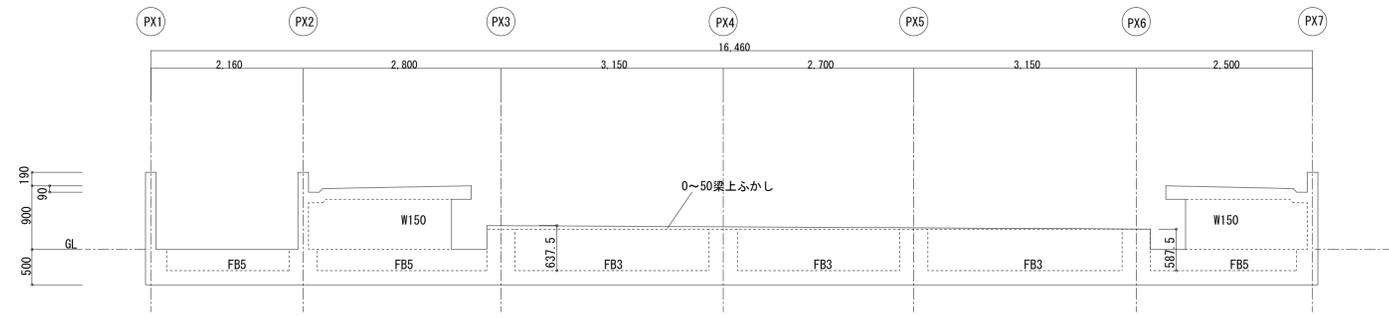
PY1通り軸組図 1/50



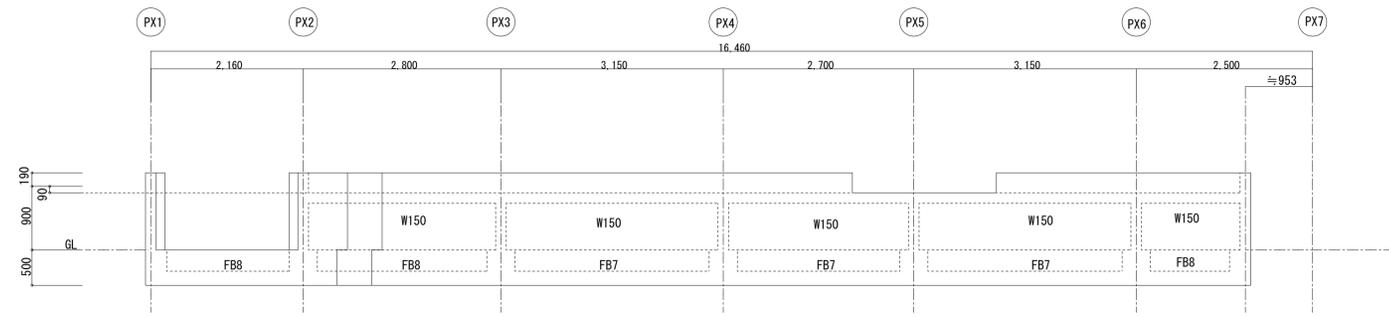
PY2通り軸組図 1/50



PY3通り軸組図 1/50



PY4通り軸組図 1/50



PY5通り軸組図 1/50

ブールGL±0=13.50
※新圍舎GL±0=13.10

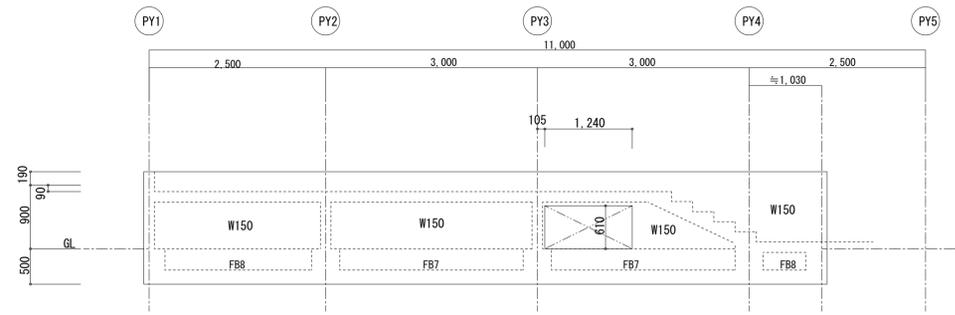
一級建築士 第212753号
構造設計一級建築士 第3836号 神谷 勝久

株式会社
ヴァイスプランニング
一級建築士設計事務所

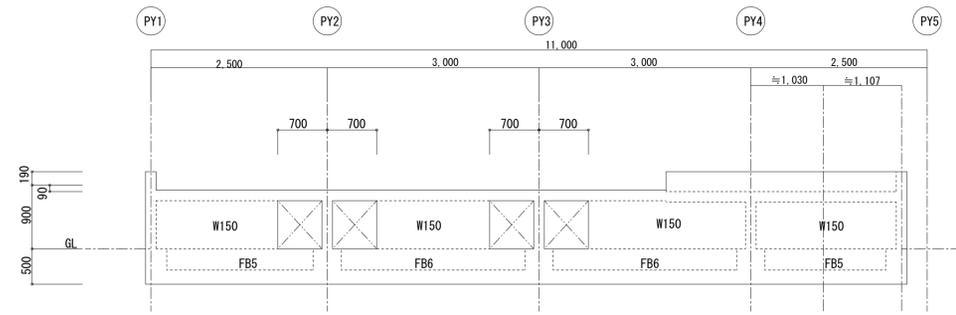
1級建築士登録 第190717号
藤原 龍美



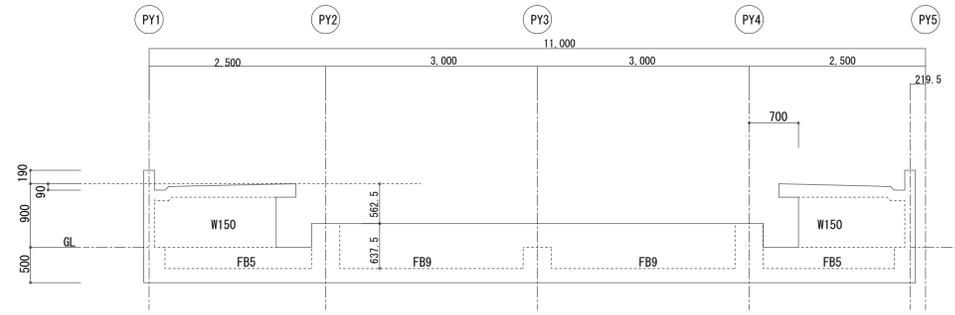
令和元年度(仮称)千浜認定こども園 新築工事 (ブール・駐車場整備)	DATA
ブール 軸組図1	No.
SCALE S=1/50	S-18



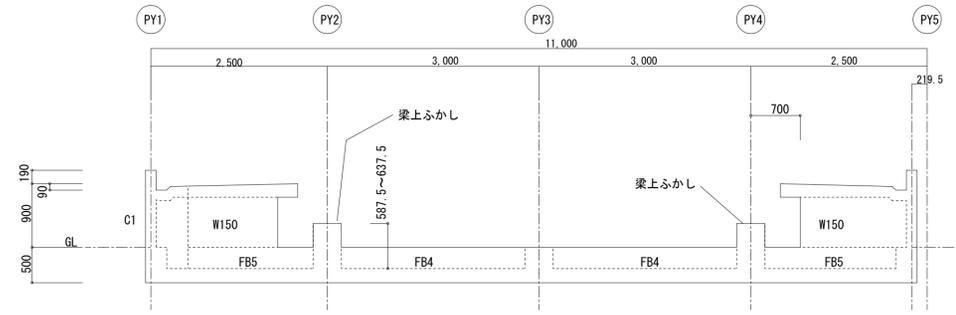
PX1通り軸組図 1/50



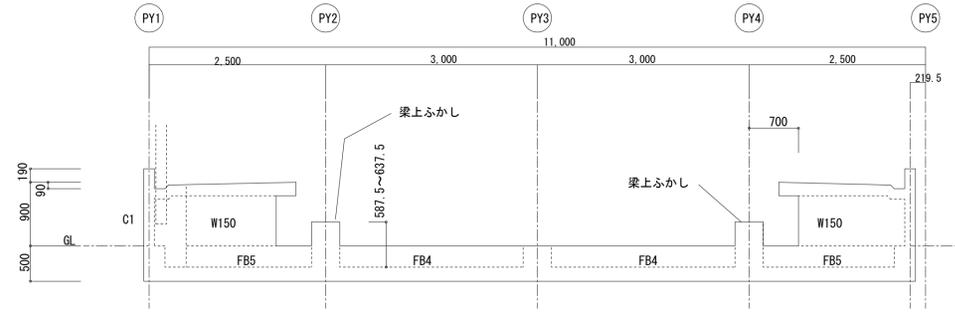
PX2通り軸組図 1/50



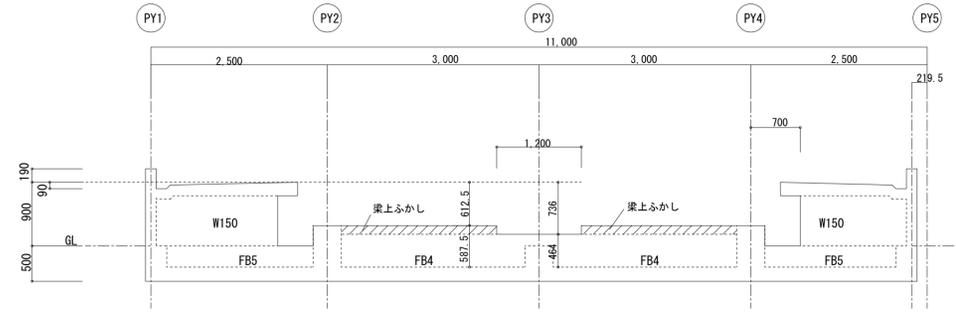
PX3通り軸組図 1/50



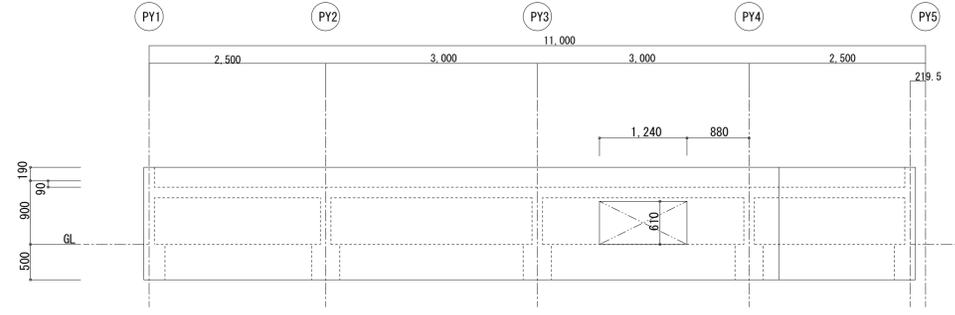
PX4通り軸組図 1/50



PX5通り軸組図 1/50



PX6通り軸組図 1/50



PX7通り軸組図 1/50

レベルGL±0=13.50
※新圍舎GL±0=13.10

一級建築士 第212753号
構造設計一級建築士 第3836号 神谷 勝久



株式会社
ヴァイスプランニング
1級建築士登録 第190717号
一級建築士設計事務所 藤原 龍美

令和元年度(仮称)千浜認定こども園 新築工事 (プール・駐車場整備)
プール 軸組図2

DATA	No.
	S-19

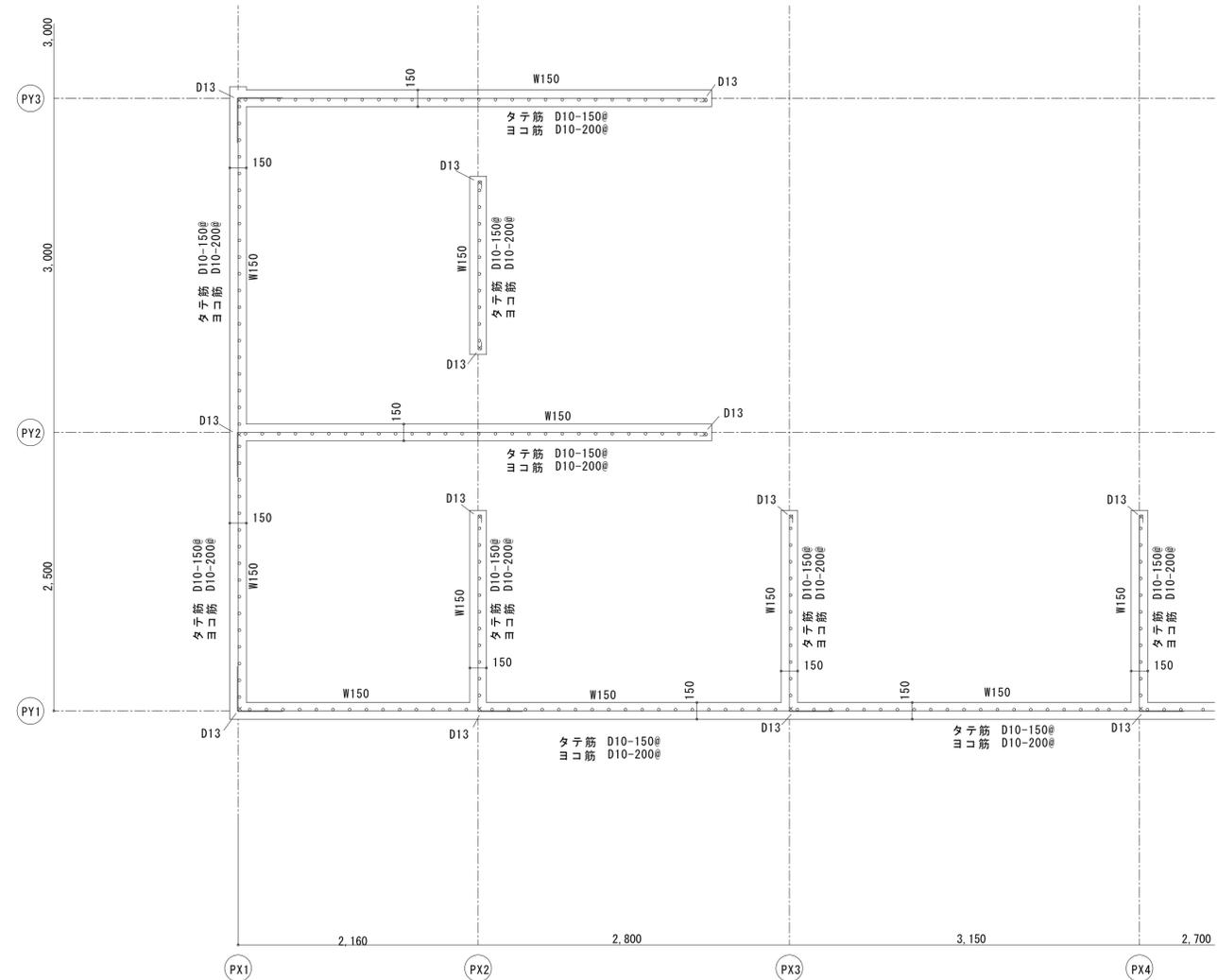
SCALE
S=1/50

スラブリスト

符号	スラブ厚	短辺方向(主筋方向)	長辺方向(配力筋方向)	備考	
S1	150	上端筋	D10, D13 -200#	D10, D13 -200#	
		下端筋	D10, D13 -200#	D10, D13 -200#	
S2	150	上端筋	D10, D13 -200#	D10, D13 -200#	
		下端筋	D10, D13 -200#	D10, D13 -200#	
FS1	200	上端筋	D13 -200#	D13 -200#	ビット床
FS2	200	上端筋	D10 -200#	D10 -200#	ビット床
		下端筋	D10 -200#	D10 -200#	

壁リスト

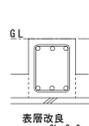
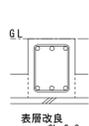
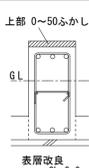
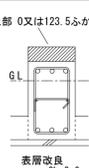
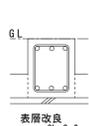
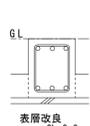
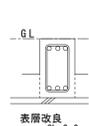
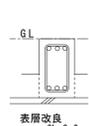
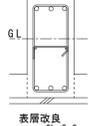
名称	W150
厚さ	150
タテ筋	D10-150#シングル
ヨコ筋	D10-200#シングル
開口補強筋	
タテ筋	1-D13
ヨコ筋	1-D13
斜筋	1-D13
断面	



配筋図 1/30

小梁リスト 1/30

幅止め筋は、D10-1000#とする。

符号	FB1	FB2	FB3	FB4	FB5	FB6	FB7	FB8	FB9
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
寸法	400*500	400*500	400*787.5	400*664	400*500	400*500	300*500	300*500	400*837.5
上端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
断面									
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
あばら筋	□ -D10-150#	□ -D10-200#	□ -D10-200#	□ -D10-150#					
腹筋	-	-	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	-	-	2-D10



株式会社
ヴァイスプランニング
一級建築士設計事務所

1級建築士登録 第190717号
藤原 龍美

令和元年度(仮称)千浜認定こども園 新築工事 (プール・駐車場整備)

プール 部材リスト、配筋図

SCALE
S=1/30

一級建築士 第212753号
構造設計一級建築士 第 3836号 神谷 勝久

DATA No

S-20